

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2672800204
法人名	マイクロテスト株式会社
事業所名	グループホームまごころ城陽
所在地	〒610-0111 城陽市富野南清水68番地5 (電話) 0774-54-7761

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年12月15日	評価確定日	平成21年1月30日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 20 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 8 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	13.9 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨モルタル 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	38,000 円	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(138,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(10 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名	
要介護1	1 名	要介護2	4 名			
要介護3	9 名	要介護4	4 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	京都市づ川病院・第二岡本総合病院・高橋内科病院・田坂歯科医院・服部歯科医院・本田歯科クリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都・奈良で介護事業を展開する法人を母体を持つ当該ホームは、国道沿いに位置し、オレンジ色が目を引く建物です。一步中に入ると、利用者と職員のにぎやかな話し声が聞こえ、活気にあふれています。事業主の思いである「自分の親を入れたいホームを目指して」をコンセプトに、管理者始め職員は理念を大切に、隅々まで理念が生きたケアをされています。職員が利用者で過ごす時間をより多く確保するため、週2回外部の調理士を依頼したり、ホームの一泊旅行に主治医が同行するなど、利用者、家族、主治医、職員が大きな輪を作り、住み慣れた地域で「その人らしくあるがままに」過ごすことを実現されているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善点であった家族への報告として、毎月写真入りのホーム便りを郵送されたり、消防計画を作成し消防署立会いの避難訓練も予定するなど、具体的な改善に取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今年度の自己評価票は、まず内容を職員に見てもらい、意見を聞いた上で、管理者とユニットリーダーがまとめて作成されました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3か月に一度、家族、市担当者、地域包括支援センター職員、法人職員、管理者等が参加して開催されています。会議では、ホームから利用者の様子や行事等の報告がなされ、参加者から様々な意見や地域の情報を得るなど、活発な意見交換の場となっています。また参加者に毎月のホーム便りを配布する等して、地域の方にホームをアピールされています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年に2回、行事の際に家族会を開催し、ホーム医も交えての意見交換の場を設けたり、面会時に直接意見を聞いています。また、苦情箱を設置したり、外部の苦情窓口を文書に明記し、意見が言いやすい体制を整え、得られた意見はその都度対処されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	職員が地域に働きかけて情報を得、地域の夏祭りや運動会に参加しています。近隣幼稚園と相互訪問による交流をされたり、中学校の体験学習の受け入れを予定しています。またホームの5周年記念の行事に、事前にチラシを配り地域の方を招待し、地域との交流にも努めています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を事業所の理念とされ、利用者を家族、地域、職員が一つの輪となり支えていくための七つの約束と共に、誰からもよく見えるように、玄関、各ユニットリビング、事務所に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、職員全員で理念を唱和し、会議等でも確認し合っている。事業主の思いである「自分の親を入れたいホームを目指して」というコンセプトのもと、職員はいつも利用者笑顔で接し、穏やかに過ごして頂けるように支援を心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員が地域に働きかけて情報を得、地域の夏祭りや運動会に参加している。近隣幼稚園と相互訪問による交流をされたり、中学校の体験学習の受け入れの予定もある。またホームの5周年記念の行事に、事前にチラシを配り地域の方を招待し、地域との交流にも努めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の改善項目をもとに、家族への報告として、毎月写真入りのホーム便りを郵送されたり、消防計画を作成し消防署立会いの避難訓練も予定するなど、具体的な改善をされている。また今年度の自己評価票は、内容を職員に見てもらい、意見を聞いた上で、管理者とユニットリーダーがまとめて作成された。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3か月に一度、家族、市担当者、包括支援センター職員、法人職員、管理者等が参加して開催されている。会議では、ホームから利用者の様子や行事等の報告がなされ、参加者から様々な意見や地域の情報を得るなど、活発な意見交換の場となっている。また参加者に毎月のホーム便りを配布している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に一度、城陽市より委託を受け、地域の人を対象とした物忘れ予防教室を開催している。また毎月介護相談員を受け入れている。市担当者とは馴染みの関係が構築されており、グループホームを地域にどうアピールしていくかについても相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、利用者の暮らしぶりや写真入りのホーム便りを郵送し、写真掲載については家族の了承も得ている。また法人の季刊誌もその都度郵送している。健康状態はホーム医から毎月直接家族に報告書を郵送してもらっている。預かり金については、家族の面会時に収支報告書と領収書を確認してもらい、サインをもらっている。	○	領収書については、原本を家族にお返しし、コピーをホームで保管される事が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、行事の際に家族会を開催し、ホーム医も交えての意見交換の場を設けたり、面会時に直接意見を聞いている。また、苦情箱を設置したり、外部の苦情窓口を文書に明記し、意見が言いやすい体制を整えている。得られた意見はその都度対処している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年に一度、管理者による職員の個人面談や法人のチェックシートによる希望調査等で、職員の希望や悩みを把握し対処している。また新しい職員には、日勤で慣れてから変則勤務に移行できるよう、他の職員がフォローしながら、利用者との関係づくりを支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画があり、随時内部研修を開催している。また実践者研修等、外部研修にも順番に参加し、報告書を提出している。その報告書をもとに、毎月の会議の中で伝達研修を行い、職員全員がレポートを提出し、情報の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会に加盟しており、全国大会に出かけ、意見交換している。法人内の他ホームとの相互見学等、利用者も含めた交流が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にはなるべく本人に見学に来てもらい、他の利用者や職員と過ごしてもらったり、職員が何度か自宅に出向き、本人との関係づくりをしている。不安な方は空き室があれば、ショートステイも利用できる。本人のペースに職員が合わせ、利用者の思いを大切にしながら、少しずつ馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は冠婚葬祭の習慣や生きていく知恵などを利用者から教わり、悩みを持ちかけ相談に乗ってもらうこともある。手を握ったり、背中をさすり合いながら、お互いの関係を確認し合う等、支え合う関係が築かれている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と職員は1対1で話す機会を多く持つことで、利用者の思いの把握に努め、職員の気づきや思いをアセスメントシートに書き足し、情報を収集している。また思いをなかなか口に出せない利用者には、表情や動きで何がしたいかを把握し、支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望・意向を聞き、主治医の意見を聞いた上で、情報収集されたアセスメントをもとにカンファレンスを開催し、それぞれの意見が反映された介護計画を作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的カンファレンスとモニタリングを行ない、それをもとに6か月に一度、介護計画の見直しが行われている。状態の変化がある利用者はその都度、見直しをされている。介護計画は日々の記録にも落とし込まれ、ケアに活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際に定期的に訪問し洗濯物を持って帰るなどの生活支援をされ、入院中の情報をも記録に残している。また空き室を利用して、ショートステイの受け入れをしている。利用者の希望に添った個別の買い物、家族が行けないときの通院や理美容等への外出支援をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者・家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めており、以前のかかりつけ医を継続している利用者もいる。2週間ごとに主治医の往診を受け、必要時に歯科医にも往診してもらっている。主治医との連携がとれており、緊急時の連絡体制も万全で、ホームの一泊旅行にも同行されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は入居時に家族に対し、重度化及び終末期についての説明をしている。以前、主治医、訪問看護の協力を得ながら、最後は家族に泊まってもらい最期を迎えた経験があり、状況に応じて家族や主治医と相談し、方針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ユニット会議の中で、常に利用者の尊厳について話し合っており、利用者のプライドを傷つけないため、自分に置き換えて言葉使いや対応を振り返っている。また利用者の写真掲示については家族の同意を得、個人情報は鍵付きのロッカーに保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝の時間も利用者毎に自由で、着替えの洋服もなるべく利用者を選択してもらっている。職員は利用者の思いを優先し、したい事がしたい時に出来るように支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日その日の献立を利用者と相談しながら決め、一緒に買い物に出かけている。また希望により、仕出しを取ったり、外食されている。利用者は下ごしらえや調理、片付け等、職員を手伝い、お互い会話を楽しみながら一緒に食事されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームでは3日に一度は入浴出来るように支援しており、いつもは午後2時から4時頃まで入浴されている。希望により、午前中や毎日の入浴も可能で、夜間の入浴についても検討中である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームは活気に満ちており、花の手入れ、買い物や荷物持ち、食事づくり、洗濯、掃除等、自分から楽しんで、役割を担っている。また趣味の習字や絵を描くことを楽しみとしている利用者もあり、職員は利用者のお番作りを演出し、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物や散歩、ドライブに出かけたり、喫茶店でお茶を楽しまれている。また月に一度は外出行事を設け、車椅子の利用者も1対1で職員と出かけている。ホームでは主治医同行による一泊旅行をされ、利用者も職員も楽しみな行事となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はされていない。ユニット入口も仕切りはあるが、利用者がすぐ外せるようになっており、自由に行き来が出来る。出かけた時は職員がすぐに対応し、同行されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでは非常階段を設置して避難経路を確保され、定期的に自主訓練を実施し、ユニット会議においても連絡網の確認をされている。また、運営推進会議でも地域への呼びかけを行っており、現在消防計画を提出中で、年2回消防署指導のもと避難訓練の開始を予定されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や水分量はチェックシートに記録されている。利用者の状態に応じ、あらかじめミキサー食で提供したり、飲み込みにくい場合はとろみをつける等、個々に合わせた対応をしている。	○	利用者の食べる量や栄養バランスについて、定期的に法人内の栄養士等のチェックを受けられることを期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでは季節感を大切にされ、リビングや廊下に行事の際の写真や利用者の作品を飾られている。キッチンの対面式カウンターの高さを下げ、より利用者の様子が見えるように工夫したり、リビングの椅子は利用者の状態に応じて、3種類用意されている。またソファをうまく配置し、気軽に寛げる空間づくりをされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は自宅より、ベッド、家具、テレビ、家族の写真等、馴染みの品を持参されたり、畳を敷いて過ごしている利用者もいる。また暖簾をかけたり、季節ごとに写真入りの表札を貼り、自室がわかりやすいように工夫されている。		